

---

領域名：教養科目・専門関連科目

報告者：山口賢一

---

### 教育及び実践の課題

---

学生による不正行為は、教育現場における長年の課題となっている。昨年度のシンセサイザーでは、Boehm et al. (2009) の論文を参照しながら、カンニングと剽窃行為の防止策について考察した。しかし、不正行為の種類は多様であり、看護大学において適切な教育環境を維持するためには、実習における課題にも目を向ける必要がある。今回は Bultasa et al. (2017) による研究を参考にしながら、臨床現場での不正行為、特に実習記録の不正について、本学の初年度学生に対する看護倫理観の啓蒙を行うことを目的とする。

---

### 活用した論文の概要

---

Bultasa et al. (2017) の研究では、米国の宗教系の大学に在籍する看護学生と、それ以外の大学・教育分野に在籍する大学生の不正行為に関する知識、行動、認識、態度を比較検証している。この研究は横断的、記述的研究デザインを採用しており、オンライン・サーベイによってデータが収集された。Bultasa et al. (2017) の考察によると、看護学の高学年に属する看護学生、あるいは既に学位を持つ看護学生は、学年の低い大学生よりも不正行為に対して非寛容的であるとされている。また、研究者は、看護師の価値や期待される行動について、看護大学教員と看護学生間で適切な話し合いがなされる必要があると述べている。

---

### 教育及び実践への活用

---

Bultasa et al. (2017) の研究を参照して、2024 年の 9 月 11 日に学内で本テーマに関するディスカッションの場を設けた。参加者は筆者を含めた本学の教員 8 名、うち 4 名は看護系の教員であった。看護系の教員からは、バイタルサインの記録の際に、患者が測定を嫌がる場合があるなど、実習において学生が経験しうる具体的な問題も紹介された。このディスカッションの内容を踏まえて、不正行為、特に実習記録の不正について本学の学生の意識を高める方策を検討した。Bultasa et al. (2017) の研究結果を踏まえ、学年の低い大学生を対象に看護師の倫理についての啓蒙が必要であると考えたため、1 年次を対象とした看護大ゼミナール I の授業内で不正行為についてのグループワークを行うこととした。グループワークでは、実習記録の不正について「看護倫理」というテーマに沿ってグループメンバーと議論する場を設け、このような不正を防ぐために学生と教員は何を心がけるべきかについても検討してもらった。実習記録の不正については、患者に対して適切なケアが提供できないことが問題であるとの意見が示され、また、記録を誤魔化すことが癖になり、実際に看護師として現場に出た際に同じような不正を続けてしまうリスクについて言及するグループもあった。また、グループワークでは、学生が教員に相談しやすい環境をつくる必要性も提案された。

---

### 参考文献

---

Bultasa et al. (2017). Crossing the “line”: College students and academic integrity in nursing in Nurse Education Today Vol. 56, 57-62.

---